

中国華南で部品検査会社の設立を目指す！ 自動車部品産業の発展に寄与

京都精工株式会社

京都精工株式会社の前身会社は、「株式会社オーイーエムシステム」(1981年9月設立)の産業機械部門であり、同部門ではリークテスト(洩れ検知)装置の設計製造を行っていた。1995年7月に、同社から分離独立し、京都精工株式会社として正式に設立された。以後一貫して自動車、家電部品など産業機械向けリークテスト装置の設計製造や流量測定・画像処理検査装置の設計製造に従事している。ここ20年来の日本における自動車、家電など機械産業の発展に併せ、当社も順調に業務を拡大してきた。リークテスト装置とは、あらゆる製品にとって致命的な欠陥となる「洩れ」を確実に検査する装置である。この検査装置が無ければ部品は部品としての本来の機能を果たす事が出来なくなり、ひいては製品全体の価値を失うものとなる。それゆえに極めて重要な検査装置なのである。当社の経営理念は“ユーザーの要求に正確に応え、満足していただくことを使命とする”と唱っており、メーカーではあるが、会社自身はサービス業と同一という精神で顧客に接している。この理念、精神の下、長年日本の自動車部品メーカー等と共にリーク検査装置を共同開発し、精度の向上に努めて来た結果、今では日本の部品産業に大きく貢献する企業として不動の地位を確立するに到ったのである。

中国って怖い所でしょうか？

2007年の春、一人の男性が中小企業基盤整備機構の近畿支部に相談に訪れた。京都精工株式会社の社長である。面談を開始するとすぐさま「中国って怖い所でしょうか？」と尋ねて来た。事情を聞くと「取引先が中国の南部に進出して、弊社も早期に進出するよう要請が来ている。しかし、金融関係やコンサルタントなど周囲の人は皆一様に“中国？怖い所ですよ。行ったら身上が台無しになりますよ”と言います。顧客は大企業でそれなりの管理体制を敷いているので不安は無いですが、弊社は中小企業で不安



リークテスト装置

がいっぱいです。どうしたら良いかわかりません」との相談であった。

相談に応じた専門員は、「まず中国へ行って、自分の目で見て、自分の耳で聴いて、自分で判断することが重要。中国に進出した外資企業は2005年末で約260,000社、うち日系企業は約22,000社。撤退した企業は推定で約2,000社、即ち、数字の上では90%以上の企業は存在している。このうち50%以上が中小企業と想像される。また日系企業の中国人雇用数は2006年の統計で約1,000万人、獲得外貨は920億ドルとなっており、中国経済で一定の地位を占めている。“中国に進出した企業は儲かっている”というのは、それらの事実を知らない人の言葉であり、実際には85%以上の企業が悪戦苦闘しながらも利益をあげている。そのような状況をみれば、“中国へ行って身ぐるみを剥がされる”ということを簡単に信ずるべきでない。そのような人は自分のミスを中国側の所為にして声高に叫んでいるだけである」とアドバイスし、中小機構の現地同行アドバイス制度を利用して、まずは事業化可能性調査(F/S)に必要な資料を準備するよう提案した。

華南の状況が少し分かって来た！

現地同行アドバイス制度を利用して、2007年7月上旬、社長は関西空港から広州に向かった。到着早々、大阪府の広東における窓口である「大阪府プロモーションデスク(大阪府PD)」を訪問し、広東及び広州全般の経済状況をヒアリングした。翌日から工場建設の候補地である広州経済技術開発区、東莞、深圳、順徳、仏山、花都をまわった。深圳では現地の国際化支援アドバイザーから、華南特有のビジネスの仕方に関する話を聞いた。

専門員は、現地同行アドバイスの際、自分の工場を持つための最良方法として「土地を見つけ、自社の設計で工場を建設してもらい、それを借りる(レンタル)こと」をアドバイスした。レンタルであるため初期投資の資金もそれほどかからない上に、自社設計のため使い勝手が良く、効率も良い。そのほか、地盤の強度、交通の便、違法建築ではないことの確認、地元政府の対応、価格の交渉、インフラ整備、生活環境、優遇税制についてもアドバイスを行った。

【日本本社】

所在地 京都府宇治市槇島町千足 19-8
 代表者名 新井 隆司
 業種 製造業
 事業内容 産業用自動機ならびに検査装置の設計・製作
 商品内容 リークテスト装置、流量測定装置、精密圧力コントロール、画像処理検査装置など
 創業年 1981年
 従業員数 23名
 資本金 1,000万円
 年間売上高 非公開

【海外拠点】

企業名 京都精工(佛山)精密機械有限公司
 所在地 中国
 地域 広東省佛山市
 事業内容 産業用各種検査装置(リークテスト画像検査等)及び自動機の設計、製作、販売
 創業年 2008年
 従業員数 25名
 資本金 7,000万円
 投資形態 独資
 年間売上高 非公開

<2010年8月現在>

さあ一、出て行くぞー！

社長は広東各地をまわり、最終的には、仏山・三水にある「広東仏山三水工業園区」に進出することを決めた。決定した理由は、当地区が省級の開発区であって市自身が外資誘致に熱心であり、対応が非常に親切である点だった。そのほか、広州空港に近い、日系顧客にも近い、周囲の治安も良い、日系企業も多数進出している、インフラや一般的生活環境も問題なし、という点も進出を決定した要因であった。

工業園区見学中に偶然建設中の工場を発見した。工場の面積は当社の要望どおりだったため、専門員は「設計を変更して、当社の要望どおりのレンタル工場にしてもらうようお願いしてはどうか」とアドバイスした。幸い、施主は了解してくれたが、問題は価格だった。交渉しようにも社長は中国語による交渉は出来ない。結局、中国でのビジネス経験が豊富で、交渉にも長けていた大阪府PDの担当者をお願いすることとなった。当初、施主が提示したレンタル価格は10円/㎡/月だったが、交渉の結果、8.5円/㎡/月で妥結できた。

次の課題は工場運営だった。「企業は人なり」は古今東西の原則である。専門員は、日本語を話す人を採用するには、仏山市の翻訳サービスセンターに接触し、人材紹介を依頼するよう勧めた。面接試験に際しても「志望理由など

ごく普通の質問ではなく、唐突な質問すると良い。例えば“今までの人生で何が一番嬉しかったか？”とか“信条は何か”ということを知れば、受験者の考え及び日本語の程度が判明して採用可否が判断できる。また日本語以外に中国語でも話しをさせること。どのように話をするかで文化教養の程度が判別できる、これも大阪府PDに協力を仰ぐのが良い」とアドバイスした。このほか、停電対策や運転業務委託に関してもアドバイスを行った。

生産開始・・・更なる発展へ！

レンタル工場は2008年3月に完成、同月より製造工場として使用している。役所の対応は必ずしも満足できるものではなかったが、仏山三水工業園区管理委員会の担当者の対応は「大変好意的で満足している」と社長は語っている。レンタル工場の建設も順調ではなかったが、専門員は「問題があるならば、すぐに管理委員会に連絡して相談するように」とアドバイスし、当社も同委員会と連絡を密にしたため、問題を最小限に止めることができていた。事業に関しては既に現地及び遠くは天津の日系企業に製品を納入している。広州は中国のデトロイトと言われるほど日系自動車メーカーが集積しており、中国自動車産業の隆盛に合わせ部品メーカーも繁栄、これらの部品に必要不可欠の京都精工(佛山)の製品も売行き好調と云う状況である。

《経営支援専門員 松野稔》



現地工場外観

専門員の視点

中国は今や世界一の自動車大国に成長し、自動車の生産は今後飛躍的に伸びて行くであろう。当社の佛山会社はこの自動車産業の隆盛を受けて順調に経営を行っており誠に喜ばしいものである。しかし、ここに至るまで決して順風満帆ではなく、日本では考えられない様な幾多の困難に遭遇し、その都度今まで培った人脈関係、知恵及び知識を駆使して問題を解決して来た。中国では常に逆風が吹き、荒波に揉まれる事は当たり前と自覚し、困難を克服してきた当社は一層逞しくなったように映る。今後、更に発展されることを祈って止まない。